

主題	口腔マッサージによる食事摂取量の増加及び摂取意欲の向上		
副題	いつまでも食事を美味しく食べる為に		
口腔ケア	口腔マッサージ	研究期間	18ヶ月

事業所	特別養護老人ホーム ニューフジホーム		
発表者：野村武史・渡邊喬正・人見真理子 (のむらたけし・わたなべたかまさ・ひとみまりこ)	アドバイザー：コンパステナルクリニック		
共同研究者：跡部典嗣・長谷川修平・田口恵子			

電話	042-544-5291	E-mail	newfuji@douen.jp
FAX	042-546-1729	URL	http://www.d-nfh.jp

今回発表の事業所やサービスの紹介	東京都多摩西部に位置し、昭和56年に開設した定員100人の特別養護老人ホームです。地域の皆さんに支えられながら、今では年間1200名を超えるボランティアの皆さんとともに利用者の生活の向上に努めています。「持ち上げない介護」や「タクティールケア」といった新しいケアにも取り組み、丁寧でやさしい、寄り添う介護を行っています。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

当ホームの口腔ケアでは、口腔内の清掃(器質的口腔ケア)について以前から重曹水を用いるなど、積極的な口腔ケアをおこなっており、肺炎等の病気予防に繋げている。

【課題】

重曹を使用した舌苔を除去するケアと「味覚の関係」「食欲」「食べる」に着目したところ、口腔機能が衰えて上手く咀嚼が出来ない利用者や、嚥下が困難な利用者が多く、口腔内の清掃ケアだけではなく、いかにして食事を自らの口で、安全に美味しく食べて頂けるかが課題となった。

【取り組み内容】

本研究は【噛む】【飲み込む】【話す】等の維持・向上のためのケア(機能的口腔ケア)について取り組んだ記録である。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

利用者の口腔機能や嚥下の向上を図るために、看護職員や訪問歯科とそのケアの方法を模索していった。「口腔マッサージを取り入れることによって改善できるのではないか」「食事を自らの口で、安全に美味しく食べて頂きたい」との思いから、訪問歯科の歯科医師や歯科衛生士の助言をもとに、施設全体で連携して口腔マッサージを行っていくこととなった。

咀嚼機能・嚥下機能は食べる意欲を左右する。食事中に眠ってしまったたり、嚥下に時間がかかると自身で召し上がることが難しくなる。そのため、食事摂取量の減少につながり、さらに体力が低下してしまう。このことから、口腔マッサージで舌や頬の緊張を和らげ、咀嚼機能・嚥下機能の向上を図り、全体的な食事摂取状況の改善を目指していった。

《3. 具体的な取り組みの内容》

【口腔機能向上の手段として】

- 口腔マッサージ方法を訪問歯科より指導を受ける
- 口腔マッサージ方法を介護員全体に周知する。

【介護員による取り組み】

(対象者)

- N氏 女性 95歳 介護度5
食事量の把握・検討、マッサージ1日2回
- I氏 女性 93歳 介護度5
自力摂取に向けての検討
マッサージ週2回
- S氏 女性 85歳 介護度5
自力摂取に向けての検討
マッサージ週3～4回
- K氏 女性 81歳 介護度5
食事形態の検討、マッサージ週2回

【訪問歯科による取り組み】

- 毎週水曜日又は金曜日に対象利用者の口腔機能の状況を見ていただき、口腔マッサージを行う。

《4. 取り組みの結果と考察》

【得られた結果】

- N氏 食事摂取量の増加
- I氏 全介助から自力摂取へ向上
- S氏 全介助から自力・半介助摂取へ向上
- K氏 食事形態の向上

口腔マッサージを行った結果、口腔機能が改善され、食事への意欲の向上が摂取量の増加に繋がり、食形態の改善が認められるようになるなど、良い効果を得ることが出来た。I氏やS氏については一見、傾眠や腕力の低下など、口腔内の問題とは無関係に思えるような事例であったが、今では口腔機能の低下が原因で摂食不良になっていたと考えられ、口腔機能が身体全体に大きく影響を与えているということが分かった。

【課題】

利用者によっては「痛いから嫌だ」と拒否する利用者や、皮膚が弱く痣や傷が出来てしまったケースもあった。その場合はすぐに中止し、完治後はその利用者の状況に応じて、口腔マッサージを行う回数を減らす対応を行った。

《5. まとめ、結論》

口腔マッサージを続けることで口腔機能の低下を防ぐことができるだけではなく、一度衰えた口腔機能を復活・改善させることができた結果、食事への意欲が向上し、摂取量の増加に繋がり、食形態の改善が認められるようになるなど、良い効果を得ることが出来たことは、大きな収穫となった。

また、口腔マッサージを通して得られた、利用者とのコミュニケーションも、利用者・介護職員双方の大きな財産となった。

今後も摂食の難しい利用者に対するケアとして、ご本人の状況を把握しながら適度な口腔マッサージを行い、口腔機能を改善していくアプローチの必要があると考えている。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- 高齢者福祉施設のための口腔ケアガイドブック（公益社団法人 全国老人福祉施設協議会）

【メモ欄】